



酒井はやみ 議員
(日本共産党
幕別町議員団)



町は令和7年3月、「誰もが生きやすいまちを目指して」幕別町男女共同参画計画」を策定した。北海道のジェンダーギャップ指数は全国最下位であり、町全体で意識をアップデートしながら、実効性ある取組を進めていく必要がある。

今年度は講演会の開催も予定されており、今後は全庁的な連携、数値目標、進化管理の体制づくりなどが求められる。DVや雇用格差、ケアの偏りなど制度的課題への対応、性の多様性を踏まえた包括的教育、町民とともに学び合い声を上げられる場づくり等、計画を具体化し、育てていく視点から、以下の4点について伺う。

- (1)計画の位置付けと実行体制について。
- (2)制度や仕組みの見直しについて。
- (3)性の多様性と人権を尊重する教育について。
- (4)町民とともに進める啓発と協働の取組について。

問 男女共同参画とジェンダー平等の実現に向けて

答 町民との協働による男女共同参画社会の実現に資する取組を推進していく

町長

(1)幕別町男女共同参画計画は、本町における男女共同参画社会の実現に資する各種取組を体系的に整理した総合的な施策の指針として位置付けている。計画の推進は全庁的な組織である「幕別町男女共同参画推進本部」を中心として、

総合的かつ効果的な推進体制を構築し、部署横断的な連携を図りながら各施策に取り組んでいく。

(2)我が国では、家族や社会構造が変化しているにも関わらず、育児や介護、家事労働が女性中心である状況や、結婚や出産等を理由に女性が離職する現状が見受けられる。町民及び町内事業所を対象としたアンケート調査でも、同様の傾向となっており、依然として男女格差のある状況が示されている。この現状を踏まえ、課題解消に向けた具体的施策を展開する本計画を策定した。計画の期間は10年間としているが、毎年度の取組状況を評価・改善するとともに、2～3年おきにアンケート調査を

実施し、施策の効果を検証する。また、5年目を目途に計画の見直しを検討し、時勢に応じた計画として推進する。町民の興味関心を高めるため、広報紙やSNSを活用した情報提供を行い、多様な意見の聴取に努める。

(3)町では、0歳からの性教育や学校でのLGBTQ講演、助産師による性教育授業等を実施してきた。しかし近年、SNSの普及で情報が増え、性暴力や性虐待被害等の社会問題、性の多様性への社会的障壁等が問題となっている。

従来の性教育は身体の発達や妊娠に焦点を置いていたが、性は健康、安全、人権、多様性に深く関わるものであり、自身や他者との関係、社会との関わりを理解するための包括的性教育の重要性を認識している。幕別町男女共同参画計画では、性を尊重し多様性を理解する施策を掲げ、人権やジェンダー平等に関する授業や出前講座を通じ、学校・教育委員会と連携し、正しい知識の普及に努める。

(4)町では、男女共同参画社会の実現に向け、パネル展や図書館での特設コーナー設置、相談窓口の周知等を実施してきた。今後はさらに、広報紙での定期的な情報発信や、「多様な人材が活躍する地域づくりセミナー」の開催を予定している。町民参加型の講演会等を通じ、協働による男女共同参画社会の実現に向けた取組を推進していく。

再質問

インターネット等で女性の性を暴力的に扱う情報に子どもたちが簡単に触れられる環境がある。性暴力・性被害を防ぐために包括的性教育を急いで取り入れる考えは。

答 具体的な方針は未定であるが、問題を放置せず、学校関係者と協議しながら効果的な方法を早急に実行する必要があると考える。



男女共同参画パネル展(令和7年6月)
(札内コミュニティプラザ内)